

【島田療育センター 保育所等訪問支援事業 自己評価総評】

- 1) ご利用者調査有効回答者割合 100.0% (対象者数: 1名、回答者数: 1名)
訪問施設調査有効回答者割合 0% (対象施設数: 1施設、回答施設数: 0施設)
職員調査友好回答者割合 100.0% (対象者数: 3名、回答者数: 3名)
- 2) ご利用者調査実施期間 2025年12月 ~ 2025年12月
訪問施設調査実施期間 2025年12月 ~ 2025年12月
職員調査実施期間 2025年12月 ~ 2025年12月
- 3) ご利用者調査の分析結果と今後の取組み
(調査結果から良かった点を【強み】、改善すべき点を【弱み】として分析)

1 環境・体制整備

【強み】 本事業の目的や利用頻度、時間等について相談の上決められ、適切な人員配置(人員・専門性)が確保されている。

*今後に向けて

訪問支援の際の環境面や玩具、教材等については、現行の対応を維持する。職員の配置については、他事業との兼務体制を維持し、利用希望があった場合に都度対応を検討する。

2 適切な支援の提供

【強み】 ご利用者のご家族、訪問施設の意向等を汲んだ上で、ご利用者に関わる専門職の意見や評価等に則った個別支援計画を作成している。
施設側の実情にも配慮し支援内容を提案し、適宜調整を図っている。

*今後に向けて

今後もご利用者本人の最善の利益を目指し、関わる人達が連携・協働していく。
引き続き情報の共有、適宜適切なアセスメントを行なうこと、またPDCAサイクル(Plan 計画→Do 実行→Check 評価→Action 改善…)を繰り返して目標達成や改善を行なっていく仕組み等の徹底を図っていく。

3 ご家族への説明等

【強み】 本事業や個別支援計画等について丁寧な説明がなされた上で、適宜ご家族に対して面談や助言等が行なわれている。
ご家族や訪問施設、また関わりのある専門職等から、必要時にご利用者の健康・発達状況について情報を共有し共通理解を図っている。
個人情報の取り扱いに十分留意されている。

【弱み】 ご本人・ご家族との意思疎通や情報共有のための配慮が不明瞭で、ホームページ上の情報発信が分かりにくかったよう。

*今後に向けて

事前に具体的な配慮の必要性を確認する。様々な情報の発信・周知方法を引き続き検討する。

4 非常時等の対応

【強み】 当センター内においては、非常災害を想定した防災訓練の実施や感染症対策の徹底がされており、訪問支援員はその知識や経験を有している。

【弱み】 訪問時の非常・災害時の対応については、滞在時間が短いこともあり防災訓練等の実施にまで至っていない。ご家族への案内も、分かりやすく伝えていく必要がある。

*今後に向けて

訪問時等に防災訓練等を実施することは難しい場合も、ご家族および訪問施設と緊急時対応等のマニュアルを共有し、個別支援計画内や面談の際に分かりやすい説明を行なう。

5 満足度

【強み】 ご利用者およびご家族に安心して事業をご利用いただいている。

*今後に向けて

常にご利用者やご家族、訪問施設の意向を確認しながら、変化や成長に応じた支援を提供していく。
ご不安やご不満等が生じたときに遠慮なく伝えていただけるよう関係性の構築に努めると共に、相談体制の工夫を講じる。

4) 訪問施設調査の分析結果と今後の取組み

訪問施設からの回答なし。

5) 職員調査の分析結果と今後の取組み

【強み】 利用希望に対し、適切な専門職が個別支援計画を基に訪問施設の環境や人員体制等に合わせた具体的な支援を提供している。
複数・多職種の専門職が連携して支援を行ない、また複数回訪問することにより、前回の支援の影響や結果を確認することができ、必要に応じて修正や調整をすることができる。

【弱み】 ご家族間の交流支援等が十分提供できなかった。
本事業については自己評価を行なっているが、第三者による外部評価が未実施だった。
地域や関係機関との連携、児童発達支援管理責任者ご利用者との面談内容等について、一部の職員に理解不足が見られた。

*今後に向けて

個別支援計画や支援プログラムの作成は、多職種が連携し、ご利用者のご要望や個別性を重視した内容となるよう、より一層の努力を講じる。
今年度は、他の関係機関との会議や就学等に伴う移行支援を要するご利用者がいなかったが、今後会議等への参画が必要な場合は、適宜対応していく。
関わる職員全員にご利用者・ご家族の多岐にわたる支援内容や事業運営についてリアルタイムに共有できていなかった点があり、「わからない」の回答が見られた点について、職員間での情報伝達の強化に努めていく。

6) 実施機関： 島田療育センター

7) 作成日： 2026年3月5日